

## 2. 自然的状況

### 2.1 気象

#### (1) 気温、降雨量等

実施区域の位置する平塚市の気象の状況は表 3.2.34 に、平成 24 年度の平均気温及び降水量の推移は図 3.2.19 に示すとおりである。また、平塚市における気象観測点位置は、図 3.2.12 に示したとおりである。

平成 20 年度から平成 24 年度の 5 年間では、年間平均気温は 14.9℃～16.0℃、年間平均湿度は 65.4%～71.4%、年間降水量は 1,604mm～2,032mm で推移している。

平成 24 年度の月別平均気温及び降水量の最高値は、それぞれ 8 月に 26.3℃、9 月に 312.5mm であった。一方で最低値は、それぞれ 1 月に 3.4℃、8 月に 40.5mm であった。

表 3.2.34 気象の状況（平塚市神田小学校）

項目 年度	気 温 (°C)			湿 度 (%)		降 水、降水量	
	平均	最高	最低	平均	最小	降水量 (mm)	降水日数 (日)
平成 20 年	16.0	35.3	-3.9	71.2	12.2	2,032	119
平成 21 年	15.9	33.7	-3.4	71.4	13.3	1,642	118
平成 22 年	15.9	37.3	-5.0	69.5	9.4	1,712	115
平成 23 年	15.7	38.5	-5.2	66.6	12.8	1,604	115
平成 24 年	14.9	33.5	-4.6	65.4	9.8	1,700	112

資料) 平塚市環境部環境保全課ホームページ「大気常時監視測定データ」

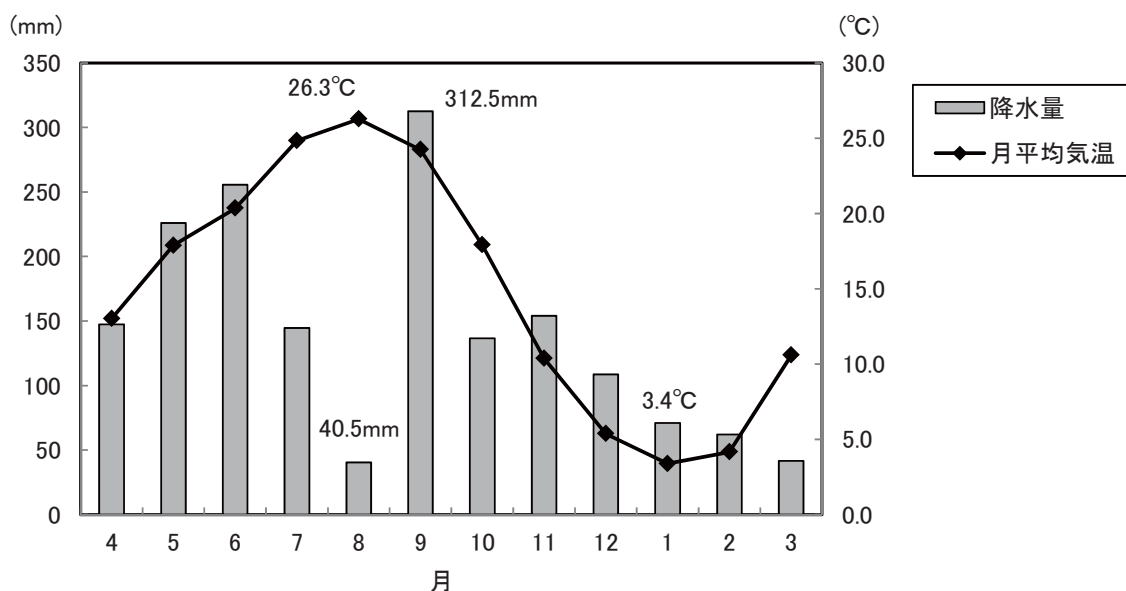


図 3.2.19 月平均気温及び降水量の推移（平塚市神田小学校・平成 24 年度）

(2) 風向・風速

実施区域の位置する平塚市では、一般環境大気測定局である平塚市神田小学校において風向・風速の観測を行っている。平塚市神田小学校の風向別出現頻度及び平均風速は表 3.2.35 に、年間風配図は図 3.2.20 に示すとおりである。また、神田小学校の位置は図 3.2.12 に示したとおりである。

年間の卓越方向は北北東で 21.7%、年間の平均風速は 2.8m/s であった。

表 3.2.35 風向別出現頻度及び平均風速  
(平塚市神田小学校・平成 24 年度)

項目 方位	風向出現頻度 (%)	平均風速 (m/s)
北	5.5	—
北北東	21.7	—
北東	16.3	—
東北東	4.3	—
東	3.1	—
東南東	1.5	—
南東	1.0	—
南南東	2.9	—
南	7.4	—
南南西	11.6	—
南西	7.9	—
西南西	4.7	—
西	1.8	—
西北西	1.6	—
北西	1.6	—
北北西	2.8	—
年間	—	2.8

資料) 平塚市環境部環境保全課ホームページ「大気常時監視測定データ」

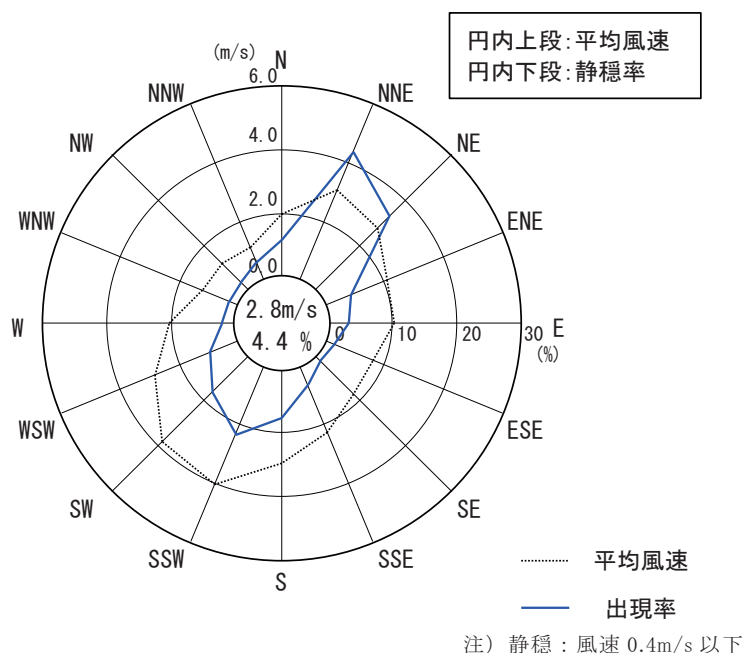


図 3.2.20 年間風配図 (平塚市神田小学校・平成 24 年度)

## 2.2 水象

### (1) 地下水及び湧水の分布状況

調査対象地域の地下水位（浅層）の状況は図 3.2.21(1)に、地下水位（深層）の状況は図 3.2.21(2)に、地下水位の経年変化は表 3.2.36 に示すとおりである。

実施区域の周辺地域における地下水位の標高は、浅層で約 10m、深層で約 0 mとなっている。また、調査対象地域内における湧水は実施区域周辺地域の西側へ約 3.5km の位置で3ヶ所みられる。

地下水位の調査は、実施区域周辺地域の南側約 6 km に位置する松原観測井において行われており、平成 19～23 年度の地下水位は、-1.29～-4.28m内で変動している。

表 3.2.36 地下水位の経年変化（平成 19～23 年度）

地域名	観測井名称	観測井所在地	所轄機関	地下水の種類	年度	地下水位 (T.P.m)
平塚地区	松原 標高 4.74 T.P.m	平塚市 天沼	平塚市	被圧 地下水	H19	-4.28
					H20	-4.19
					H21	-3.36
					H22	-3.06
					H23	-1.29

資料) 環境省ホームページ（全国地盤環境情報ディレクトリ）

「主要地域の地盤沈下等の状況（神奈川県【県央湘南】）（平成 23 年度版）」

### (2) 河川及び水路の分布状況

「別添 3 - 2 1.6 水利用」、「別添 5 - 2 2.水質汚濁」に示すとおりである。

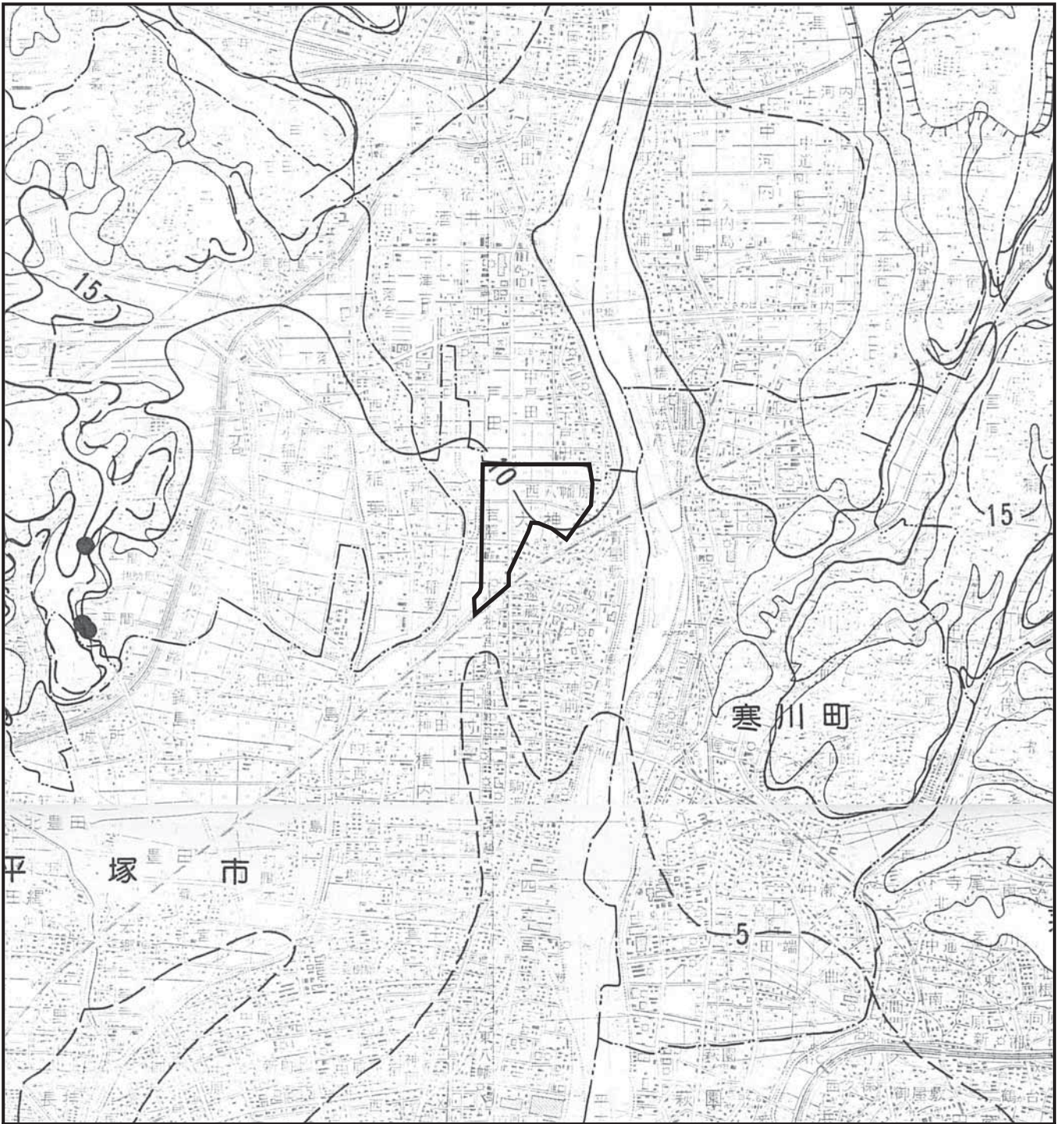
### (3) 河川の流量

調査対象地域における河川流量の調査地点の位置は図 3.2.7 に、観測結果は表 3.2.37 に示すとおりであり、相模川、玉川、永池川及び目久尻川でそれぞれ 1 地点ずつ流量調査を実施している。






表 3.2.37 河川流量観測結果（平成 23 年度）

項目 河川名 地点名		流量 (m <sup>3</sup> /s)			測定回数
		平均値	最小値	最大値	
相模川	寒川取水堰（上）	50.38	20.79	157.49	24 回/年
玉川	相川水位観測所	1.29	0.42	2.22	48 回/年
永池川	新竹沢橋	1.37	0.09	4.68	12 回/年
目久尻川	河原橋	2.17	0.94	3.97	12 回/年

資料) 神奈川県環境科学センター「平成 23 年度神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 24 年 10 月）



凡 例

-  : 実施区域
-  : 地下水位等高線 (標高 [m])
-  : 崖 線
-  : 行政界
-  : 湧 水

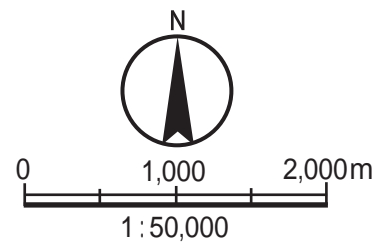
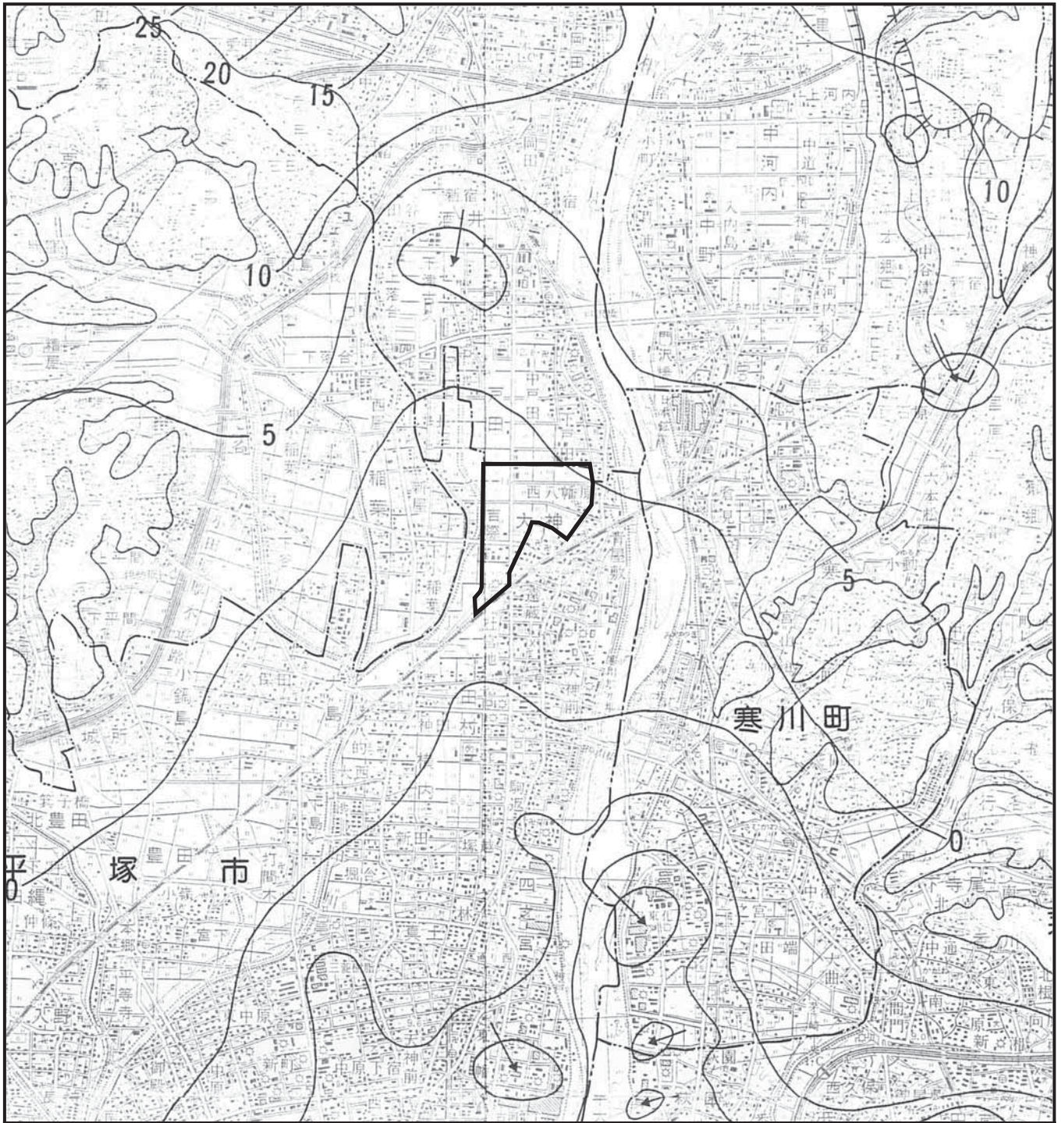







図3.2.21(1)  
地下水位 (浅層) 等の状況

資料) 神奈川県温泉地学研究所「神奈川県地下水位・水頭分布図」(平成6年)



凡例

-  : 実施区域
-  : 地下水位等高線 (標高 [m])
-  : 崖線
-  : 行政界
-  : 地下水の揚水地点を示す

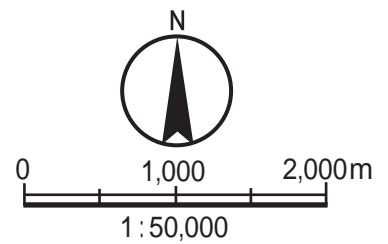


図3.2.21(2)  
地下水位 (深層) 等の状況

資料) 神奈川県温泉地学研究所「神奈川県地下水位・水頭分布図」(平成6年)

## 2.3 地象

### (1) 地形

調査対象地域は、相模平野の南部に位置し、相模平野は相模原台地と大磯丘陵、愛甲台地の間に広がる低地で、相模沖積低地と呼ばれ、相模川を中心に河川の堆積作用によりできた平野である。

相模平野を流れる相模川の流域には広い扇状地面とこれをきる数段の段丘が分布している。相模平野では、高位のものより、座間Ⅰ面・座間Ⅱ面・下末吉面・善行面・相模原面群・中津原面・田名原面群・陽原面群・完新世段丘面群の9段の河成・海成段丘がみとめられる。

実施区域は、相模川河口から約7～8km 遡った河川沿いにあり、実施区域周辺地域の東側には、相模川沿いに大規模な自然堤防が発達しており、この自然堤防は約300～500mの幅を持ち、ゆるやかなS字を呈している。この自然堤防の西側は相模川の氾濫原となり、水田地帯となっている。

調査対象地域の地形の状況は、図3.2.22に示すとおりであり、実施区域の多くは相模川により形成された氾濫平野に位置している。

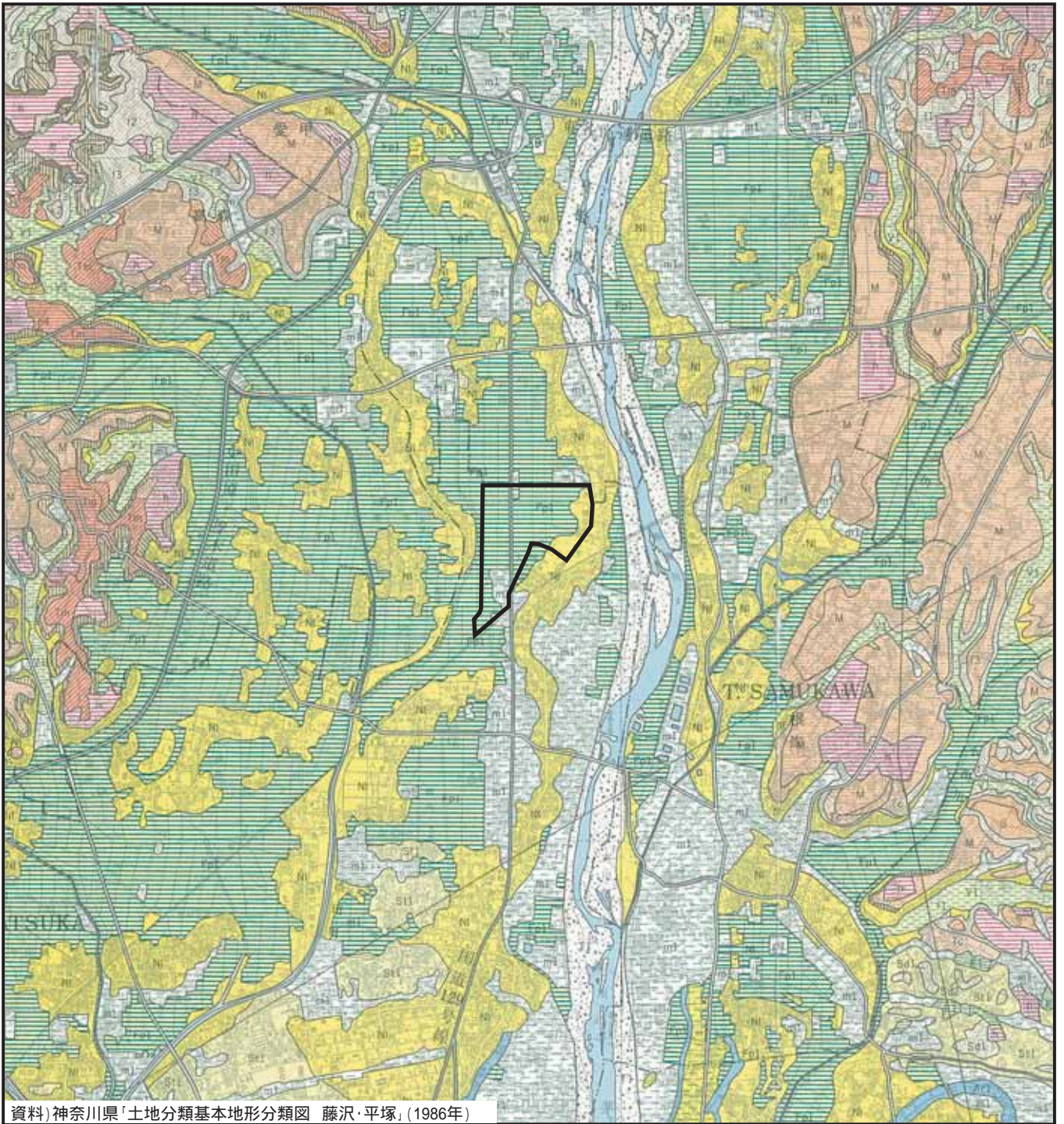
### (2) 地質

調査対象地域は、相模平野の南部に位置し、相模平野は相模川を中心に河川の堆積作用によりできた相模沖積低地と呼ばれている。相模沖積低地の沖積層の厚さは、相模川河口付近で約90m、東名高速道路付近で約55mであり、上流にいくに従って薄くなる。この沖積層は下位から、基底礫層、下部砂礫・泥層、中部砂礫層、上部泥・砂層、頂部泥・砂礫層に区分される。

実施区域付近の沖積層の厚さは、約40～60mであり、上部から頂部泥層、上部砂・泥互層、下部泥層、下部砂礫層が分布している。

また、調査対象地域が位置する相模平野には中部更新統の相模層群が広く堆積したが、地表における相模層群の分布はおもに横浜市南部の丘陵と大磯丘陵にかぎられ、平野の大部分の地域では地下に埋没しており、わずかに座間丘陵（座間Ⅰ・Ⅱ面）と高座丘陵（下末吉面）に露出しているだけである。これらの丘陵の周囲には、風成火山灰層におおわれる上部更新統の段丘構成層が分布している。

調査対象地域の表層地質の状況は、図3.2.23に示すとおりであり、実施区域は、未固結堆積物である泥が堆積し、実施区域周辺地域の東側の相模川流域は、河川の堆積作用により礫が堆積している。



資料) 神奈川県「土地分類基本地形分類図 藤沢・平塚」(1986年)

凡例

: 実施区域

一般山地

- : 山腹緩斜面
- : 山麓緩斜面
- : 一般斜面
- : 急斜面

段丘地形

- : 多摩段丘面群
- : 下末吉段丘面群
- : 武蔵野段丘面群
- : 立川段丘面群

低地の微高地

- : 自然堤防
- : 砂丘
- : 砂堆・砂州

低地の一般面

- : 谷底平野
- : 氾濫平野
- : 旧河道
- : 河原

人工地形

- : 平坦化地
- : 盛土地

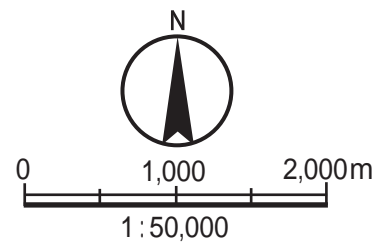
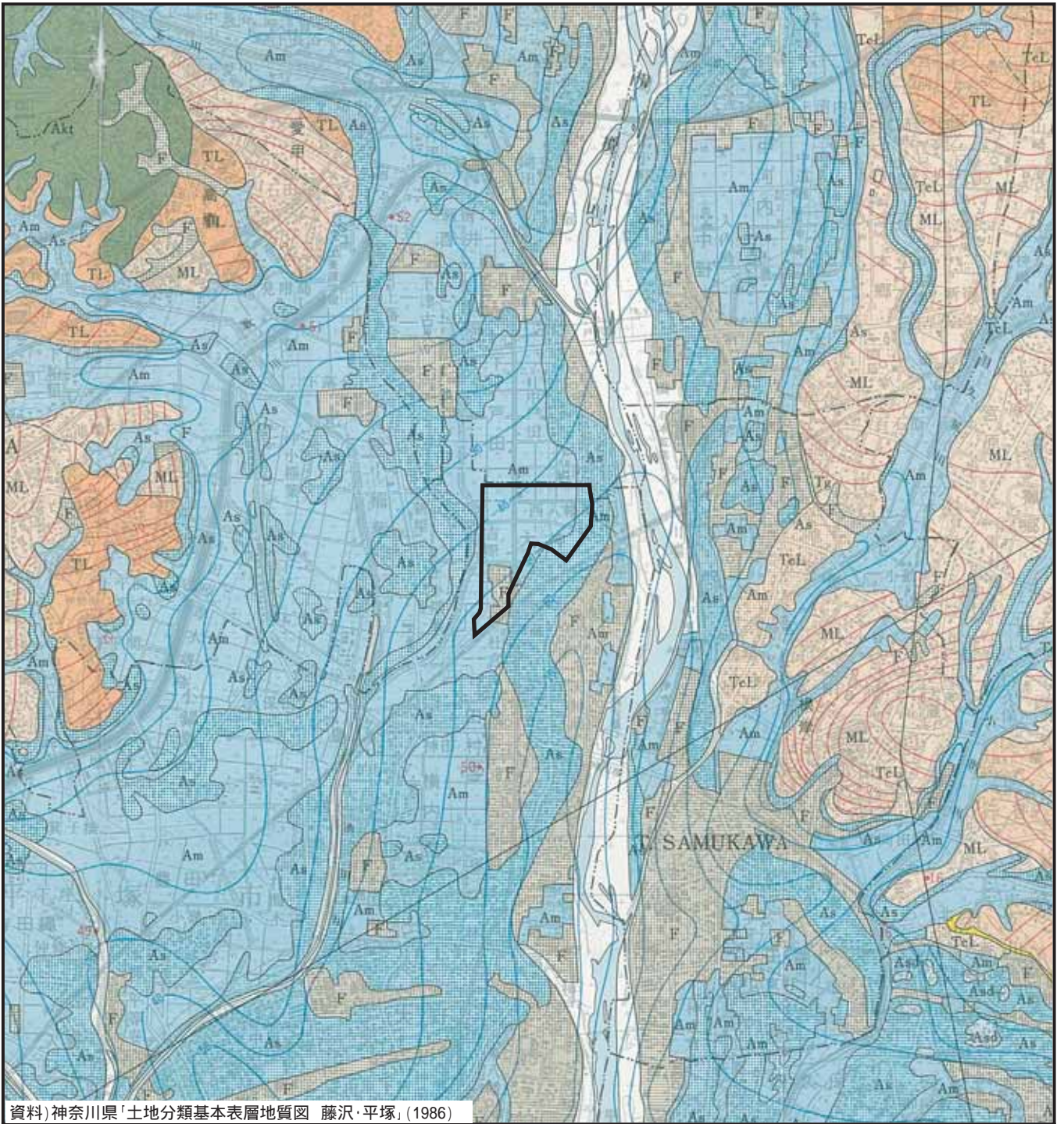


図3.2.22 地形分類



資料) 神奈川県「土地分類基本表層地質図 藤沢・平塚」(1986)


<p>凡例</p> <p><span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> : 実施区域</p>		<p><span style="background-color: #d3d3d3; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> ML : 火山灰層(軽石・スリヤを挟む) 武蔵野ローム層</p> <p><span style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> TeL : 礫、砂</p> <p><span style="background-color: #ffff00; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> Ss : 砂を主とし礫、泥を挟む</p>		<p>N</p>  <p>0 1,000 2,000m</p> <p>1:50,000</p>
<p>未固結堆積物</p> <p><span style="background-color: #d3d3d3; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> F : 埋め立て土</p> <p><span style="background-color: #ffffff; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> : 礫、砂、泥</p> <p><span style="background-color: #add8e6; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> Am : 泥を主とし砂を含む</p> <p><span style="background-color: #add8e6; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> Asd : 砂丘砂</p> <p><span style="background-color: #add8e6; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> As : 砂、礫を主とし泥を含む</p> <p><span style="background-color: #d3d3d3; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> TeL : 火山灰層(スリヤを含む) 立川ローム層</p> <p><span style="background-color: #d3d3d3; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> SL : 火山灰層(軽石・スリヤを挟む) 下末吉ローム層</p>		<p>半固結堆積物</p> <p><span style="background-color: #d3d3d3; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> TL : 火山灰層(軽石・スリヤを挟む) 多摩ローム層</p> <p>固結堆積物ならびに火成岩</p> <p><span style="background-color: #6aa84f; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span> Δk : 凝灰岩を主とし砂岩、泥岩、 礫岩を挟む</p> <p>— : ローム層の基底の等高線</p> <p>— : 沖積層の基底の等高線</p>		

図3.2.23 表層地質



## 2.4 生物

### (1) 植物

調査対象地域が位置する相模平野は古くから土地開発がなされ、自然植生はほとんど残存していない。低湿地は水田、その他は畑として広く利用されてきた平野には、かつては水田の周辺に池沼、溜池、泥湿地が点在したが、最近の土地開発は著しく、市街地の拡張、住宅団地、公共施設、工業団地、道路などの建設により、沼池、湿地は埋め立てられ、水田は縮小と乾田化が進み、水辺植物、湿地植物は激減している。相模川では河辺植物が激減している代わりに、セイタカアワダチソウ、オオブタクサ、アレチウリなどの帰化植物の繁茂が著しい。

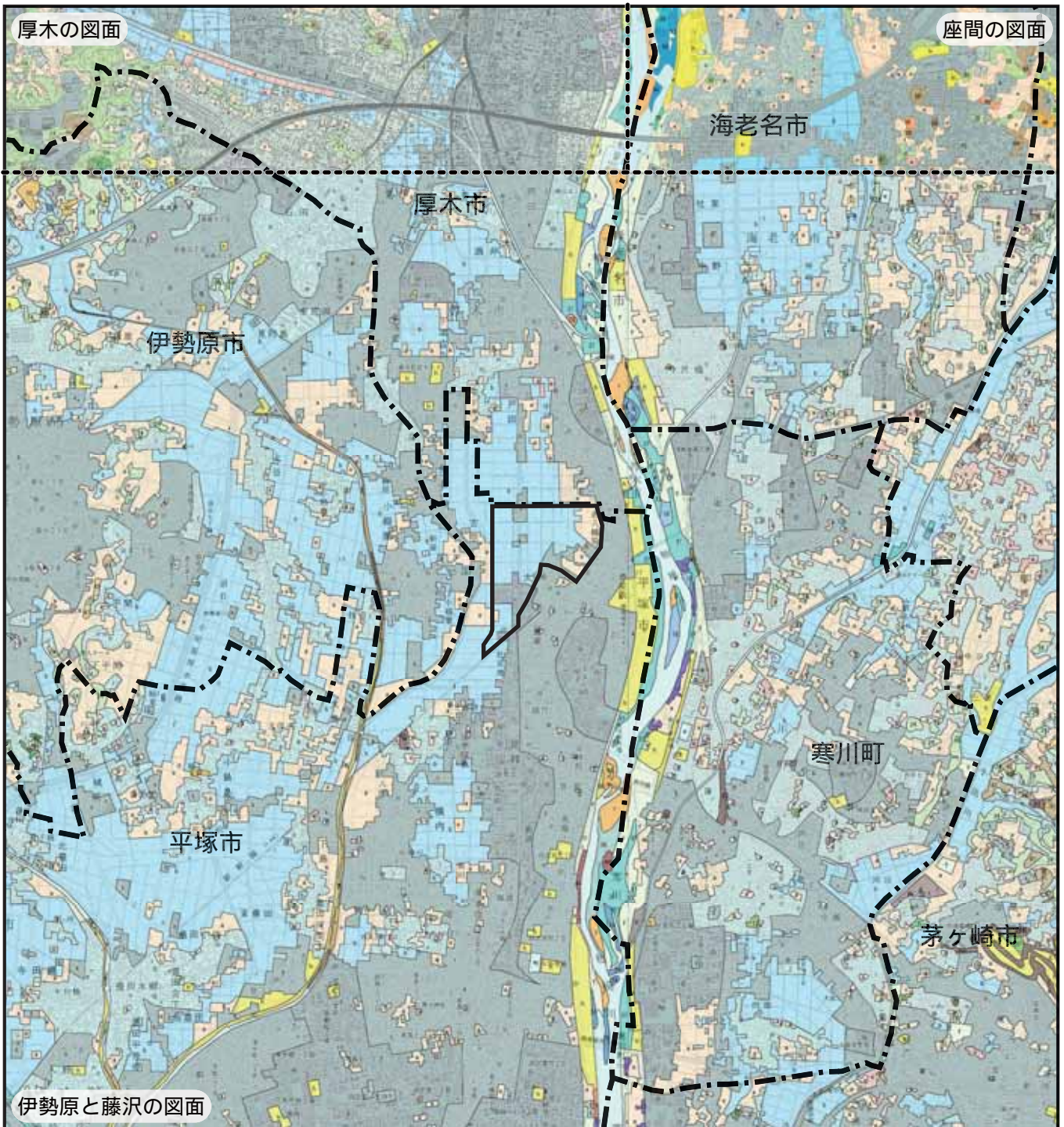
調査対象地域の現存植生の状況は、図 3.2.24 に示すとおりであり、「第 6・7 回自然環境保全基礎調査 1/25,000 植生図 【厚木、伊勢原、座間、藤沢】」（平成 12-13 年作成、環境省自然局生物多様性センター）によると、調査対象地域は市街地、緑の多い住宅地、工場地帯など生活活動の場が広く分布し、次いで水田雑草群落、畑地雑草群落などの耕作地が多く見られる。実施区域は大半が水田雑草群落となっており、一部が畑地雑草群落及び市街地となっている。

また、「平成 12 年版 ひらつかの環境」（平成 12 年 9 月、平塚市環境部環境政策課）によると、平塚市で生育していると予測されているレッドデータの植物種数及びその該当種は表 3.2.38 に示すとおりである。

表 3.2.38 平塚市におけるレッドデータ予測植物数

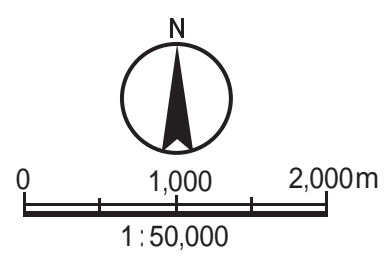
分類	絶滅危惧種		減少種	
	種数	該当種	種数	該当種
植物	0	—	7	ヒメタテ、ヒロハノカワラサイコ、オオアカウキクサ、ミズオオバコ、アマナ、エビネ、クマガイソウ

- 注) 1. 「絶滅危惧種」：県内での分布域が過去よりも狭まり、このままでは県内での生息が危ぶまれる種  
 2. 「減少種」：県内での分布域が過去よりも狭まってはいるが、当面は県内での生息・生育が続くと判断される種  
 3. 本リストは「神奈川県レッドデータ生物調査報告書(平成 7 年 3 月)」より作成されたものである。  
 資料) 平塚市環境部環境政策課「平成 12 年版 ひらつかの環境」(平成 12 年 9 月)



- 凡 例
- : 実施区域
  - : 市町境

注) 図中の記号の植生凡例は、図 3.2.24 (2) に示すとおりである。



資料：環境省自然局生物多様性センター  
「第6・7回自然環境保全基礎調査 1/25,000 植生図  
【厚木、伊勢原、座間、藤沢】」

図 3.2.24 (1) 現存植生

# 植 生 凡 例

〈厚 木〉	〈座 間〉	〈伊勢原 と藤沢〉	〈 群 落 名 等 〉
該当なし	該当なし	9	シラカシ群集
該当なし	該当なし	10	ヤブコウジ - スダジイ群集
該当なし	21	12	イノデ - タブノキ群集
該当なし	25	17	ムキノキ - エノキ群落
該当なし	28	18	ヤナギ低木群落 (V1)
20	該当なし	20	シイ・カシ二次林
24	35	24	クヌギーコナラ群集
該当なし	該当なし	25	オニシバリーコナラ群集
該当なし	該当なし	28	メダケ群落
該当なし	45	30	低木群落
該当なし	該当なし	31	チガヤーススキ群落
該当なし	50	34	ヨシクラス
該当なし	該当なし	35	ミゾソバーヨシ群落
該当なし	該当なし	36	ツルヨシ群集
37	53	37	オギ群集
該当なし	該当なし	38	カワラハハコーヨモギ群団
41	58	41	スギ・ヒノキ・サワラ植林
該当なし	該当なし	43	クロマツ植林
該当なし	該当なし	44	ニセアカシア群落
該当なし	64	45	その他植林
47	66	該当なし	竹林
h	h	h	ゴルフ場・芝地
g	g	該当なし	牧草地
f	f	f	路傍・空地雑草群落
e	e	e	果樹園
a	a	a	畑雑草群落
b	b	b	水田雑草群落
k	k	k	市街地
i	i	i	緑の多い住宅地
該当なし	p	p	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
L	L	L	工場地帯
該当なし	該当なし	m	造成地
w	w	w	開放水域
r	r	r	自然裸地

注) 使用図面ごとに植生凡例記号・番号が異なるので、使用図面別に植生凡例を表記してある。

資料：環境省自然局生物多様性センター

「第6・7回自然環境保全基礎調査 1/25,000 植生図

【厚木、伊勢原、座間、藤沢】

図 3.2.24 (2) 現存植生

## (2) 動物

調査対象地域において、「文化財保護法」（昭和 25 年、法律 214 号）等に基づき天然記念物として指定されている動物及びその生息地等は確認されていない。

調査対象地域は、環境庁の「第 6 回自然環境保全基礎調査 哺乳類分布調査報告書」（平成 16 年 3 月、環境省）によると、実施区域が位置するメッシュでは、ニホンザル、タヌキの分布が確認されている。

両生、爬虫類は、「平塚の生きもの地図」（平成 16 年 7 月、平塚市博物館）によると、減少種であるトウキョウダルマガエルが平地の水田で確認され、実施区域内においても 9 ヶ所で生息が確認されているが、その後、平塚市博物館の調査（平成 19 年～平成 20 年）においては、トウキョウダルマガエルは生息が確認されていない。

鳥類については、実施区域が水辺（夏季の水田、水のある休耕田等）、草原・畑（畑、冬季の乾田等）が中心となっていることから、絶滅危惧種では 4 種（ヨシゴイ、ヒクイナ、シロチドリ、タマシギ）、減少種では 8 種（コチドリ、イカルチドリ、イソシギ、オオヨシキリ、セッカ、タゲリ、ヤマシギ、オオジュリン）が確認される可能性がある。

昆虫類は、「平塚の生きもの地図」（平成 16 年 7 月、平塚市博物館）によると、減少種であるマツムシ及びクツワムシはほとんどが丘陵地で確認され、実施区域及び周辺地域では確認されていない。

また、「平成 12 年版 ひらつかの環境」（平成 12 年 9 月、平塚市環境部環境政策課）によると、平塚市内で生息していると予測されているレッドデータの動物種数及びその該当種は表 3.2.39 に示すとおりである。

表 3.2.39 平塚市におけるレッドデータ予測動物数

分類	絶滅危惧種		減少種	
	種数	該当種	種数	該当種
魚類	7	カマキリ (アユカケ)、キングメアジ、カワアナゴ、ボウズハゼ、ニゴイ、ホトケドジョウ、メダカ	8	アシシマハゼ、ウナギ、カマツカ、ウグイ、シマドジョウ、ナマズ、ミミズハゼ、ヌマチチブ
両生類 爬虫類	1	【両生類】 イモリ	10	【両生類】 アズマヒキガエル、トウキョウダルマガエル、シューレゲルアオガエル、ニホンアカガエル 【爬虫類】 トカゲ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシ
鳥類	6*	ヨシゴイ、ミゾゴイ、ヒクイナ、シロチドリ、タマシギ、コオバシギなどシギ類	13	サシバ、コチドリ、イカルチドリ、イソシギ、サンショウクイ、アオバズク、フクロウ、オオヨシキリ、セッカ、サンコウチョウ、タゲリ、ヤマシギ、オオジュリン
哺乳類	0	—	1	カヤネズミ
昆虫類 (甲虫類を除く)	0	—	17	ミヤマセセリ、ギンイチモンジセセリ、メスグロヒョウモン、オオムラサキ、ハグロトンボ、カワトンボ、コフキトンボ、クツムシ、オナガササキリ、キリギリス、クロツヤコオロギ、マツムシ、カヤコオロギ、スズムシ、キンヒバリ、ケラ、ショウリョウバッタモドキ

- 注) 1. 「絶滅危惧種」：県内での分布域が過去よりも狭まり、このままでは県内での生息が危ぶまれる種  
 2. 「減少種」：県内での分布域が過去よりも狭まってはいるが、当面は県内での生息・生育が続くと判断される種  
 3.\*シギ類をまとめて示した数であり、実際の種類数はこれより多くなる。  
 4.本リストは「神奈川県レッドデータ生物調査報告書(平成7年3月)」より作成されたものである。  
 資料) 平塚市環境部環境政策課「平成12年版 ひらつかの環境」(平成12年9月)